

# 平成25年度病害虫発生予報第5号

平成25年8月1日  
愛知 県

## 普通作物

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	少ない	全域	7月下旬の葉いもちの発生量は少ない 8月の気温はやや高い 8月の降水量はやや少ない	— — —
	紋枯病	少ない	全域	7月下旬の発生量は少ない 8月の降水量はやや少ない	— —
	白葉枯病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	やや少ない	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はやや少ない	± —
	ニカメイガ	やや多い	全域	7月下旬の発生ほ場率はやや高い 予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	+ ± ±
	セジロウンカ	やや少ない	全域	7月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数はやや少ない	— —
	トビイロウンカ	平年並	全域	7月下旬現在、本田では発生を確認していない(平年並)	±
	ツマグロヨコバイ	やや多い	全域	7月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	斑点米カメムシ類	やや多い	全域	7月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	イチモンジセセリ(イネツトムシ)	平年並	全域	7月下旬の被害株率は平年並	±
フタオビコヤガ(イネアオムシ)	やや多い	全域	7月下旬の被害株率は平年並 予察灯における誘殺数は一部で多い	± +	
コブノメイガ	やや少ない	全域	7月下旬の被害株率はやや低い 予察灯における誘殺数は平年並	— ±	
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

### ・防除対策

#### [イネ・ニカメイガ]

早植栽培及び普通期栽培では、茎の太い品種で発生が多い傾向があるので留意し、パダン粒剤4、ダントツ粒剤、スタークル/アルバリン粒剤などで防除しましょう。

#### [イネ・ツマグロヨコバイ]

早植栽培及び普通期栽培では、トレボン粒剤、ベストガード粒剤、ダントツ粒剤、スタークル/アルバリン粒剤、スタークル豆つぶなどで防除しましょう。

#### [イネ・斑点米カメムシ類]

7月2日発表の「平成25年度病害虫発生予報注意報第2号」を参照してください。

〔イネ・フタオビコヤガ（イネアオムシ）〕

防除薬剤などについては、7月2日発表の「フタオビコヤガ（イネアオムシ）情報第1号」を参照してください。

・留意事項

いもち病の発生量は少ない状況です。詳細は、本日発表の「いもち病情報第4号」を参照してください。

セジロウンカの発生量は全体的にはやや少ない状況です。ウンカ類の飛来・生息状況は、本日発表の「ウンカ情報第3号」を参照してください。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、現在のところ概ね平年並に推移しています。詳細は、本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号（ダイズ）」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	少ない	全域	せん定枝の胞子形成量（5月）は少ない 8月の降水量はやや少ない	－ －
	ミカンハダニ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	少ない (やや早い)	全域	7月下旬の防風用のイヌマキにおける払い落とし虫数は少ない 有効積算温度による成虫発生ピークはやや早い	－
ナシ	うどんこ病	やや多い	全域	7月下旬の発生量はやや多い	+
	ハダニ類	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	ナシヒメシクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	やや少ない	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はやや少ない	± －
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない 7月下旬の被害葉率はやや少ない	－ －
カキ	うどんこ病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	カキノヘタムシガ	平年並	全域	第1世代幼虫による被害果率は平年並	±
果樹共通	コナカイガラムシ類	平年並	全域	7月下旬の寄生結果枝率は平年並	±
	カメムシ類	やや少ない	全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は少ない 7月中旬のヒノキにおける寄生頭数は平年並 スギ、ヒノキ球果量はやや多い	－ ± －

・防除対策

〔ナシ・うどんこ病〕

ナリアWDG、ベルコートフロアブルなどで防除しましょう。防除を実施する際は、収穫前日数に注意してください。

・留意事項

ウンシュウミカンでは、チャノキイロアザミウマの発生量は少ない一方、有効積算温度から計算した成虫発生ピークは、平年より2～3日、前年より4～6日早い状況です。詳細は、本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第4号」を参照してください。

モモでは、ハダニ類の発生がやや多くなっています。早期落葉を防ぐために収穫後に防除を行いましょう。

果樹カメムシ類は、スギやヒノキの球果を餌として増殖し、それらが餌として適さなくなると果樹園に飛来してきます。7月中旬のヒノキ口針鞘数調査から、8月は果樹園への飛来量は少ないと予測します。詳細は、本日発表の「果樹カメムシ情報第2号」を参考にしてください。

## 野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+
野菜共通	ハスモンヨトウ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

・防除対策

[キャベツ・オオタバコガ]

ファルコンフロアブル、プレオフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

フェロモントラップにおける誘殺数は、ハスモンヨトウは平年並ですが、シロイチモジヨトウとオオタバコガは平年に比べ多い状況です。また、ハイマダラノメイガも、発生に好適な気象条件が見込まれるため、発生量が多くなると予測します。アブラナ科野菜などの育苗時には農薬による防除を徹底するとともに、防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぎましょう。

トマトでは、コナジラミ類の発生が増加する時期です。TYLCVの感染を防ぐため、育苗時、定植時には寄生の有無を確かめるとともに、タバココナジラミに効果のある粒剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置しましょう。

## 花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク（露地）	ミナミキイロアザミウマ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	オオタバコガ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+

・防除対策

[キク（露地）・オオタバコガ]

幼虫を確認したら、直ちにスピノエース顆粒水和剤、フェニックス顆粒水和剤、プレオフロアブルなどで防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台7月26日発表）

〈特に注意を要する事項〉

少なくとも期間の前半は、少雨の状態が続く見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50%、2週目は平年並または高い確率ともに40%、3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕	低い	: 20%	平年並	: 40%	高い	: 40%
〔降水量〕	少ない	: 40%	平年並	: 40%	多い	: 20%
〔日照時間〕	少ない	: 20%	平年並	: 40%	多い	: 40%